

まほろば



2016.4
第176号

新任のご挨拶



4月1日付けで、特別統括病院長に就任致しました。本年3月でご退職された佐藤年信前院長の後任としてはしばらくの

間、国立病院機構北海道東北グループ担当理事で仙台医療センターの田所慶一院長が併任することになりました。今までにない変則体制で少し戸惑われる方もおられると思いますが、佐藤前院長先生が行っていた実務的なことは私が引き続き行うことになりますので宜しくお願いします。

簡単な自己紹介をします。私は岩手県の出身で、1969年4月弘前大学に入学しこちらに来てから46年になります。3月まで弘前大学附属病院勤務でした。1975年卒業後36年間弘前大学医学部整形外科学教室に所属し整形外科診療にあたり、直近の4年間は附属病院長として病院経営に関わってまいりました。専門は肘を含めた手外科、マイクロサージャリー・骨延長を応用した四肢再建です。

さて、4月4日の着任挨拶でも少し触れましたが、今後の私が取り組むべきことは、県主導で行われている地域医療構想を踏まえた本院の将来構想を、皆さんの意見を伺いながら構築することです。ご承知のごとく青森県では今後の人口減少に対応し、10年後約3500床（うち津軽地区では1000床）の削減計画を示しました。しかし一方で、本県の65歳以上の高齢化率は高くなり75歳以上の人

口は2040年でも現在の119%まで増加するとされています。つまり、より多くの合併症を持った高齢者は減少することではなく、対応が必要となります。

緊急を要する案件としては、弘前地区の二次救急体制の充実です。当院の佐藤前院長先生が座長となり、いわゆる輪番制度を検討し、当院を中心となり推進してきた経緯があります。本年から大学病院の高度救命救急センターが外科輪番に参画することになり、また弘前市も大学へ救急医師養成のための寄付講座を立ち上げ、バックアップすることになりました。しかし、当院への負担は減るところまではいっていません。大学病院からの人的援助は今後も不可欠で、関係各科には引き続き協力を依頼すべく良好な関係を維持していきたいと考えています。

患者さんにとって良好な治療環境および職員の皆さんにとって働きやすい環境を提供すべく、外来・管理棟他の再開発に向けた構想も練る必要があります。

小田桐副院長・三上統括診療部長・石黒臨床研究部長・高橋看護部長・阿部薬剤部長・河野事務部長はじめ病院総職員の英知を結集し、これら難題に取り組むべきであると考えています。皆さんのご理解・ご協力をお願い致します。

最後になりますが、佐藤前院長先生が、弘前市出身の女流画家であり東京女子美大教授の福士朋子さんの絵を寄贈してくれました（本誌他記事参照）。お楽しみいただければ幸いです。この紙面をお借りして佐藤年信先生に深謝致します。

特別統括病院長：藤 哲

絵画：『Loci-2』 作成：2004年

当院前院長 佐藤 年信先生より、「絵画」の寄贈がありましたのでご紹介いたします。

「『Loci(ロキ)』は「locus」(場所、位置)の複数形で俯瞰した風景をいくつかの視点で描いていることからこのタイトルをつけました。川のある風景が元になっています。」



佐藤 年信前院長

藤 哲統括病院長

〈福士朋子プロフィール〉

- ・弘前市出身
- ・女子美術大学芸術学部洋画科油絵専攻卒業
- ・東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修士課程修了
- ・2015年6月から女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻教授

病棟エレベーターホール前に掲示しておりますので、どうぞご覧ください。

がんと闘う皆さんへ



日本人の2人に1人ががんに罹患すると言われる現在、がんと闘う患者さんにとって、がん化学療法は命をつなぐための大切な治療です。近年、治療薬の発展は目覚ましく、患者さんにとってより効果のある薬剤が日々開発されています。一方で副作用も多岐にわたり、生活への影響も大きく、苦痛や不安を感じながら病気と闘っている方も少なくありません。

私は、2014年にがん化学療法認定看護師資格を取得し、7階病棟で勤務をしています。がん化学療法認定看護師として副作用のマネジメントを行い、QOLの維持の支援ができたらと思い日々活動しています。活動の中では、治療を続けながらも、それぞれの人生を力強く送られている患者さんの姿に、日々勇気づけられています。

患者さんが自分らしい生活を送りながら治療を受けることができるよう支援していきますので、お悩みやご相談がありましたら、いつでも声掛け下さい。

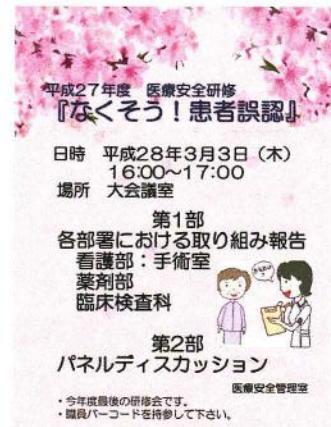
がん化学療法認定看護師：鎧山 里美

平成27年度 第15回 医療安全のつどいを終えて

3月3日、医療安全のつどいが当院大会議室で開催されました。この医療安全のつどいは平成13年度から開催されていたリスクマネージメントフォーラムを継承し、『なくそう患者誤認！』のテーマで16:00～17:00の1時間で行いました。電子カルテ導入以降、電子媒体の中で患者誤認を経験した部署を中心に取組の発表とパネルディスカッションを行いました。患者確認のための新しい取組を始め、外来診察時に医師の協力を得てお名前を名乗っていただくことも浸透してきています。今後も患者さんのご協力をいただきながらお名前確認に努めてまいります。実行委員長の神村医師からは、お名前を伺うことでさらにコミュニケーションがとれるようになる、というお言葉があり盛況のうちに閉会することができました。実施後のアンケートには、「新生児は名乗れないで医療側が意識して確認しないといけない」「人は間違え

るので一つ一つ確認し確実に実施しなければならない」等の意見が寄せられ、意識の高まりを感じる事ができ、有意義な時間であったと思います。今後も引き続き医療安全対策のご協力をお願いいたします。

医療安全管理係長：吉田 利枝



胃瘻セミナーに参加して

平成28年1月22日、静岡県立こども病院で行われた胃瘻セミナーに参加してきました。このセミナーには、医療従事者、学校関係者、患者さん家族など多くの方が参加されていました。小児外科医師・管理栄養士による講演、実際にこども病院で提供しているミキサー食の作り方、栄養バランスの考え方、注入の仕方などを勉強してきました。

胃瘻造設後の食事を、栄養剤ではなくミキサー食を注入することは、患者さん本人や家族にたくさんの方々が参加されていました。

家族と同じ食事が食べられる喜び、食物アレルギーがある場合は除去した食事にできる、バラン

スよく食べられる、コストがかからないなど、今回学んできた多くのことを、今後当院の対象患者さんや、NSTなどの業務に活かしていきたいと思います。

栄養士：滝川 桃子



平成28年度診療報酬改定について(1)

医療機関の主な収入となる診療報酬については、医療の動向等に対応するよう2年毎に改定が行われていますが、今回がその年度で、平成28年度診療報酬改定が行われました。

今回の改定は、前回(平成26年度)の改定の結果検証により、病床の機能分化・連携、外来医療・在宅医療などについて一層の推進・強化が図られるよう、以下の4つの大きな視点を基本的な考え方としたものとなっています。

- 視点1：地域包括ケアシステムの推進と、医療機能の分科・強化・連携に関する視点として、「重症度、医療・看護必要度」の見直し、医療従事者の負担軽減、退院支援等の充実など。
- 視点2：患者にとって安心・安全で納得できる効果的・効率的で質が高い医療を実現する視点として、情報通信技術を活用したデータ利用の推進、リハビリテーションの評価の適正化、明細書無料発行の推進など。
- 視点3：重点的な対応が求められる医療分野を充実する視点として、小児医療・周産期医療・救急医療の充実、手術等医療技術の適切な評価など。
- 視点4：効率化・適正化を通じて制度の持続可能性を高める視点として、後発医薬品の使用促進等、医薬品の適正使用の推進、湿布薬の適正な処方など。

この診療報酬改定により医療費の負担が増えることもあります、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

次回は、改定項目のうちいくつかピックアップして記載いたします。

入院係長：山田 敦



外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2016年4月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
		—	—	—	—	—
消化器・血液内科		鎌田耕輔	鎌田耕輔	佐竹立	鎌田耕輔	鎌田耕輔
		松木明彦	松木明彦/立田卓登	松木明彦	松木明彦	佐竹立
		佐藤年信	佐竹立	佐藤年信	秋元直樹	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	—	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦	佐藤工	佐藤啓	佐藤工	杉本和彦
		三上珠希	岡本剛	三上珠希	岡本剛	佐藤啓
外科		田澤俊幸	中井款	田澤俊幸	中井款	三上勝也
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	櫻庭弘康	小田桐弘毅
整形外科	午前	神裕道	秋元博之	秋元博之	休診(手術)	秋元博之
		工藤整	工藤整	神裕道		神裕道
		大学医師	大学医師	工藤整		工藤整
脳神経外科	午後	—	—	—		休診
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	●予約	●手術/検査	●予約	●手術/検査	●予約
泌尿器科	午前	神村典孝	神村典孝	弘前大学医師	神村典孝	神村典孝
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		谷口綾亮	丹藤伴江	丹藤伴江	●妊婦健診 (一般外来休診)	谷口綾亮
		阿部和弘	阿部和弘	田中加奈子		松村由紀子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		武田育子/西谷友里	—	—	後藤真一	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	川口英夫 (午後)
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

広報誌編集委員会において投稿されました川柳の選出を行いましたが、今月は掲載まではいたりませんでした。来月号に期待をしております。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614

URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>